

経済・金融フラッシュ

No.07-076 2007/09/28

鋳工業生産 07年8月～7-9月期は大幅増産の公算

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

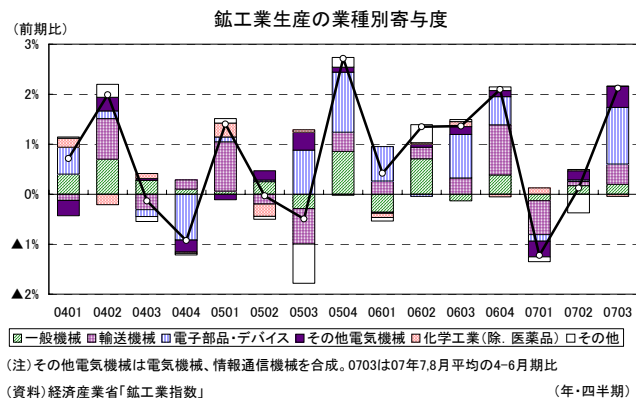
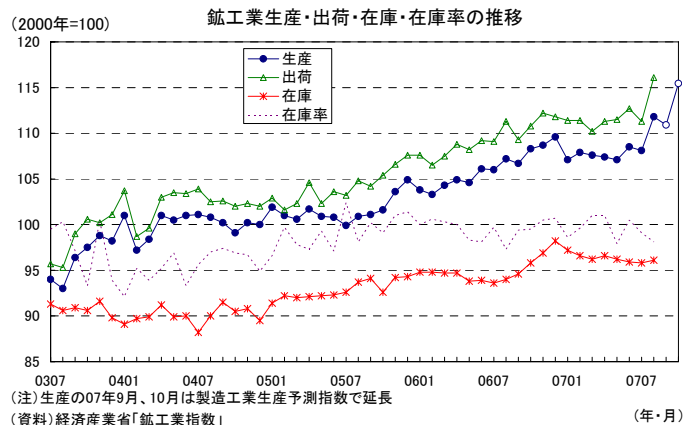
1. 生産指数は2ヵ月ぶりの上昇

経済産業省が9月28日に公表した鋳工業指数によると、8月の鋳工業生産指数は前月比3.4%と2ヵ月ぶりに上昇し、ほぼ市場の事前予想通り（ロイター集計：前月比3.2%、当社予想は2.8%）となった。出荷指数は、前月比4.3%と2ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比0.3%と4ヵ月ぶりの上昇となった。

新潟県中越地震の影響で、7月に前月比▲7.2%の大幅低下となった輸送機械が、その反動もあって同15.7%と急上昇したことが生産指数上昇の最大の要因である。7月の生産指数は、自動車減産の影響で1%強押し下げられたが、8月は逆に2%程度の押し上げ要因となった。

その他の業種についても、在庫高止まりが懸念されている電子部品・デバイスが前月比2.5%、パソコンなどの大幅増産が目立つ情報通信機械が同5.0%と高い伸びとなるなど、速報段階で公表される16業種中、11業種が前月比で上昇した。自動車の反動増による影響を除いて考えても、生産は上昇しており、総じて良好な内容となった。

設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は7月の前月比5.4%の後、8月



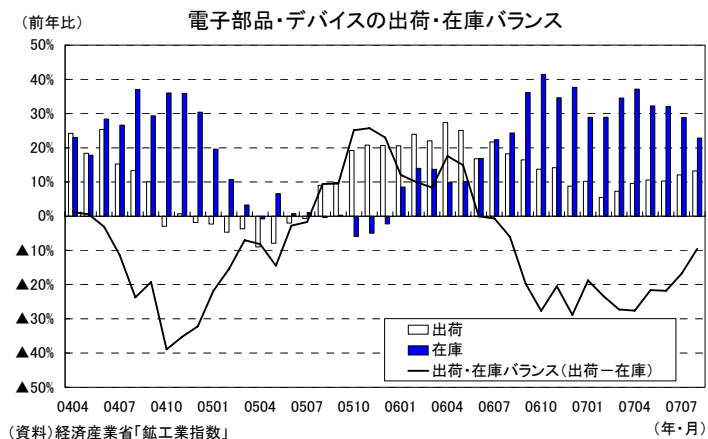
は同 0.8%となり、7、8月の平均は4-6月期よりも4.4%高い水準となった。4-6月期の設備投資（GDP統計）は、前期比▲1.2%の減少となったが、7-9月期は明確な増加に転じる可能性が高いと考えられる。

なお、8月の生産指数は118.8（2000年=100、季節調整値）となり、直近のピークであった2006年12月の109.6を上回った。昨年末頃をピークにすでに景気が後退局面に入っているとの見方も一部にあったが、その可能性はほぼなくなったと見てよいだろう。

2. 電子部品・デバイスの在庫調整が大きく進展

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲1.7%の低下となり、前年比でも22.8%と前月よりも積み上がり幅が大きく縮小した（7月：同28.8%）。出荷は前月比3.8%の上昇、前年比では13.2%の上昇（7月：前年比12.1%）となり、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は▲9.6%と、7月の▲21.8%から大きく改善した。

電子部品・デバイスの在庫は水準としては依然として高いものの、IT関連輸出の好調も追い風となり、最終需要（出荷）が強めの動きを続けていることから、在庫調整は大きく進展している。このことは、生産の先行きを見る上で明るい材料と言えよう。



製造工業生産予測指数は、9月が前月比▲0.8%、10月が同4.1%となった。8月までの生産指数を9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期は前期比2.4%となる。最近の鉱工業生産の実績値は予測指数の伸びを下回る傾向があるため、この数字は割り引いて見る必要はあるものの、7-9月期の生産指数が4-6月期の前期比0.2%から大きく加速することはほぼ確実となった。米国経済の減速傾向が強まる中、10-12月期の生産が引き続き増加基調を維持できるかどうか、今後の焦点となろう。